

ミステリ読書案内

2023. 3. 10 発行元

第455号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

ダシール・ハメットの代表作

「ハードボイルド」の生みの親。ダシール・ハメットの代表作について考えてみたい。これまでも何回か取り上げているので、それと合わせて読んでもらえるとうれしい。コンティネンタル・オプとサム・スペード。

全てが「代表作」

チャンドラーを取り上げるとハメットを取り上げないわけにはいかない。ハメットも作品数が多いわけではないので、すべてが代表作であると言っていいと思う。

今回長編は『血の収穫』と『マルタの鷹』を選んだが、他の『デイン家の呪い』『ガラスの鍵』『影なき男』のいずれも是非読んでもらいたい作品である。

ハメットは1894年アメリカ・メリーランド生まれ。途中からピンカートン探偵社の探偵となり7年間調査に携わった。その経験は作品

に生かされている。第一次世界大戦の時陸軍に入隊したが、結核にかかり療養を余儀なくされた。病気と戦いながら作家になることを目指し、パルプマガジンに作品を書き始めた。長編は5冊、中短編は60編くらいあり、一時期は人気作家になった。最後の長編『影なき男』はその時期のもの。

第二次世界大戦後は思想的な部分で衝突があり、投獄されたこともあった。そんなことも関わって新しい作品が書かれることはなかった。最後まで一緒に生活を共にした作家のリリアン・ヘルマンによる評伝などハメットの研究書は多い。

NO.3「ハメット傑作集1」

1923年～1930年にかけての短編を集めたもの。ハメットの短編集は各出版社で出版されている。ここに取り上げたのは創元推理文庫版である。訳者の稲葉明雄は「あとがき」で「4冊予定」と書いているが、私の手元には『1』と『2』しかない。途中で途切れてしまったのだろうか？

本書に収録されているのは『フェアウェルの殺人』『黒づくめの女』『うろつくシャム人』『新任保安官』『放火罪および…』『夜の銃声』『王様稼業』の7編。ほとんどがパルプマガジンの『ブラックマスク』に掲載されたものである。『新任保安官』は長編『血の収穫』の原型になった作品。世の中にハードボイルドが誕生した時期の作風を味わうことができる。

NO.1「血の収穫」

1929年。原題は『Red Harvest』。私は最初創元推理文庫版で読んだので『血の収穫』と言っている。他の出版社の訳書では『赤い収穫』になっている場合もある。創元版は今手元になくて、取ってあるのは講談社の世界推理小説大系の第9巻で、ウールリッチ(アイリッシュ)の『黒いアリバイ』と合本になっている。昭和47年の黒いケース入りの本である。訳は稲葉明雄。

「パースンヴィルのことをポイズンヴィルと呼ぶのをはじめて聞いたのは…」で始まる。「ポイズンヴィル＝毒の町」にやってきたのはコンティネンタル探偵社の名無しの探偵。ヘラルド新聞社のドナルド・ウィルスンから夜十時の自宅を訪ねるよう依頼されたから。行ってみるとウィルスンは留守で、部屋で待っているとウィルスンは帰ってこないと言われた。街の通りで人が集まっていたので聞いてみると、ウィルスンは銃撃されて死亡したとのこと。探偵は人ごみの中で会ったビル・クイントという人物と知り合い、この街の現状を説明してもらおう。街の鉱山や工場を支配しているエリヒュー・ウィルスン(ドナルドの父親)と労働者との間に争議が起これ、それを力で解決するために外部から「ならず者」を招いたので、街は混乱状態に陥っているというのだ。次の日、探偵はエリヒューに会いに行くが追い出されてしまう。そこで探偵は……。

No.2「マルタの鷹」

1930年。原題は『The Maltese Falcon』。ハメットの代表作の第一に本書を挙げる人も多いが、私は『血の収穫』の方が好きだ。探偵の性格のためかもしれない。「マルタの鷹」とは十六世紀に聖ヨハネ騎士団からスペイン皇帝に贈られた宝石をちりばめた純金製の彫像のこと。

サム・スペードはマイルズ・アーチャーと共にサンフランシスコで私立探偵事務所を開いている。秘書はエフィ・ペリン。この事務所をミス・ワンダラーと名乗る一人の女性が訪ねてくる。ニューヨークから来たという。十七歳の妹がフロイド・サーズビーという男に騙されて駆け落ちしたようだ。サンフランシスコから連絡が来たので、急いで会いに来たのだが、妹は出てこないでサーズビーのみが会うという。そこで、スペードはアーチャーにその約束の場に張り付くよう頼む。その夜、スペードのところに入った電話連絡は警察からであり、アーチャーが拳銃で撃たれて死亡したというものだった。現場に駆け付け、警察の面々と会話を交わし…。仲間を失ったスペードは…。ところが怪しい人物のサーズビーもまた別のホテルの正面で……。